

「リノベーション型地域滞在」に基づく関係人口創出・拡大を目指す
「都市圏起点+コミュニティホテル仮説型」中間支援モデル

【事業主体 = 十勝シティデザイン】

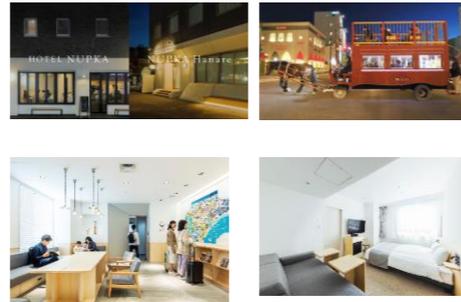
北海道・十勝・帯広市

2016年：HOTEL NUPKAを開業

2019年：馬車BARツアーを開始

2020年：帯広市/第一生命とワーケーション推進連携協定

2021年：ワーケーション対応型「NUPKA Hanare」を開業



【事業概要】

①「コミュニティホテル」を拠点に②「リノベーション型地域滞在」を行うことを③都市圏起点で推奨することが、関係人口創出・拡大に有効であるとの事業仮説に基づき、十勝・帯広を舞台とする「リノベーション体験ツアー」を実施。アンケート等で当該仮説の有効性を検証する事業。

合計3回（7月/9月10月）の「リノベーション体験ツアー」実施を事業年度中に計画。

東京を中心とする都市型企業をメインターゲットとし、新しい「暮らし」「働き方」を求める個人側の動きを企業が後押しする流れを作り出すことを目指す。十勝・帯広リノベーション協議会が活動母体となる。

【コミュニティホテル仮説】

ホテルの宿泊者と地域側生活者との交流を促進する「コミュニティホテル機能」を提供すれば、ホテルは都市類似の機能をもったクリエイティブ・イノベーション拠点となり、都市圏からの関係人口の定着・拡大に有意な役割を果たせるとする仮説

HOTEL NUPKA（帯広市）は当該仮説に基づき2016年に開業した。

【進捗状況】

都市型企業向け提案モデルを策定（4-5月）： 地域・地方での「暮らし」「仕事」を望む自社従業員を後押しする「関係拠点」作りを企業側に提案。関係人口の創出・増大は日本全体の「人口減少課題」への対処であり、自社にとってもメリットある取組であることを理論構築。

体験ツアー募集イベント（オンライン）の開催（6月）： HOTEL NUPKAオリジナルの動画・写真・ビールなどを活用しエンターテインメント性の高いオンラインイベントを開催（6月17日）。約40名の参加者に対して「リノベーション体験ツアー」への参加を呼びかける。

第1回十勝・帯広リノベーション体験ツアーを実施（7月8-10日）： 東京圏での緊急事態宣言に挟まれた期間であったが、8企業・団体から約15名が参加（定員20名）。ワーケーション設備を充実した「NUPKA Hanare」等を宿泊拠点に、(i) 多様なワーケーション施設でのテレワーク体験、(ii) 地元企業や公的団体への訪問、(iii) 「働きたくなるオフィス」見学、(iv) 参加者間・地元関係者を交えた交流会、(v) ローカルフードと自然風土を楽しめる各種プログラムを実施した。

【リノベーション型滞在の提言】

「リノベーション」= リゾート x ワーク x イノベーション

東京の仕事を地方でするだけのワーケーションはつまらない。都市圏の企業・生活者と地域・地方の資源/人材/企業等とが相互に出会い・交流し、新たな価値を創り出す「イノベティブ」な滞在モデル。



【十勝・帯広リノベーション協議会】

「リノベーション型滞在」を十勝・帯広地域を拠点としてモデル実証的に最初に実現し、全国的な広がり結びつけることを目的として2020年5月に結成

会員企業：①十勝シティデザイン、②KPMGモビリティ研究所、③十勝バス、④ANAホールディングス、⑤大丸有環境共生型まちづくり推進協会（三菱地所）、⑥電通、⑦ジョルダン、⑧ジョルテが参画

【都市圏起点仮説】

地域・地方側での取組に加え、都市圏側を起点とした中間支援を推進することが関係人口の創出・拡大に有効であるとの仮説。都市型企業側に寄り添う立ち位置で、提言やコンサルテーションを実施していくことが鍵となる。

十勝・帯広リノベーション協議会の組成と取組みは当該仮説に基づく。

【現在抱えている課題】

- 企業側のリノベーション/ワーケーション推進意欲の動向（現在は様子見段階？）
- 関係人口が地域側が協働する「イノベーション」を実際に起こせるか？
- 東京 - 帯広の距離（900km / 飛行機で90分）は遠いか近い？
- ワーケーション/関係人口拡大において、北海道の冬の寒さは不利に働くか？
- 滞在ハブ拠点となる帯広中心市街地の空洞化問題の解決が急務